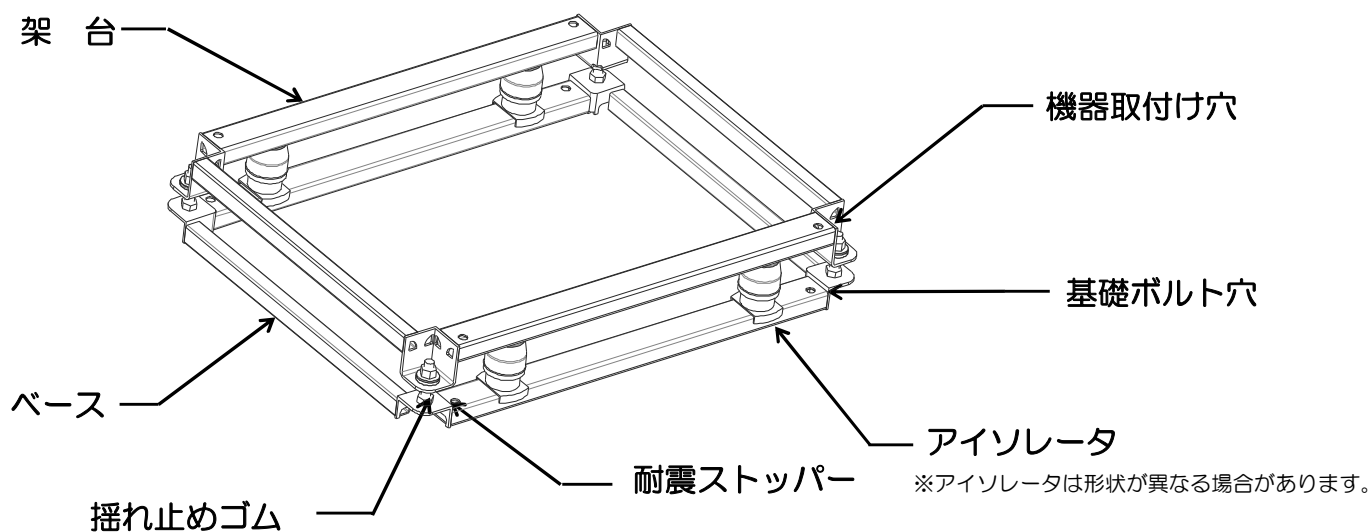


スプリング防振台 取扱説明書

この度は弊社防振台をご採用いただきましてありがとうございます。
据付工事を行う前に必ずお読みくださり、十分ご理解のうえ正しく施工を行ってくださるようお願い致します。

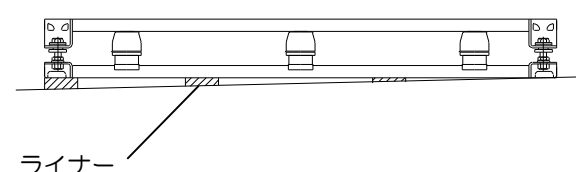
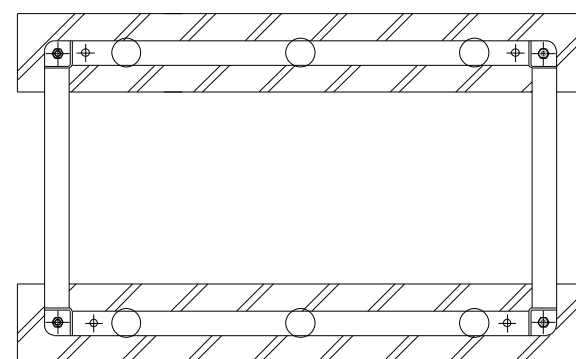
据付の前に

- 防振台の梱包（ダンボール）を取り除いてください。
- 製品銘板ラベル中の品番がご注文の品と一致しているかご確認ください。
- 付属品（ボルト・ナット類）をご確認ください。
- 基礎ボルトは付属しておりません。お客様にてご用意ください。
なお推奨基礎ボルトとして、各納入仕様書を必ずご参照ください。
また一部機種を除き、オプション品として基礎ボルトブラケットの設定もありますが
当ブラケットは別売品となりますのでご注意ください。



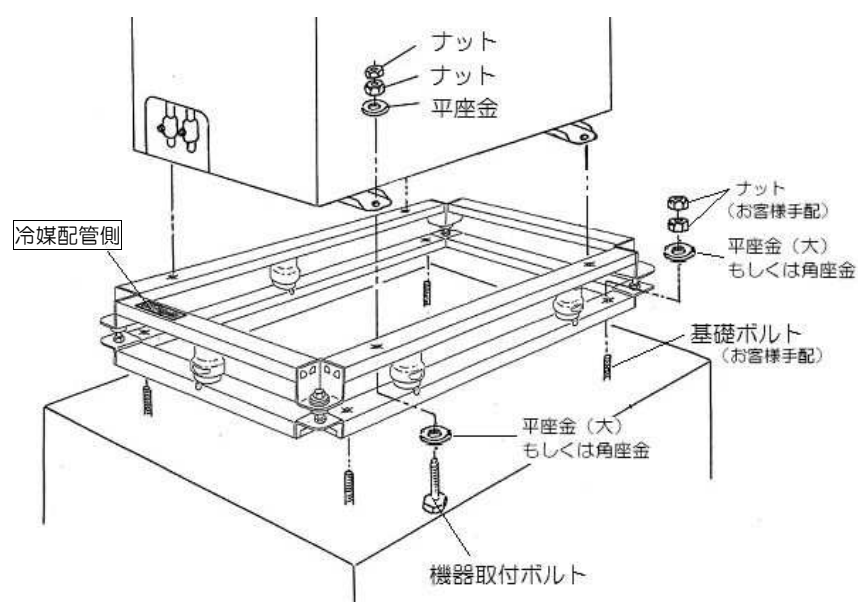
基礎の確認と施工上の注意事項

- 基礎は原則としてレベルの出た全面基礎としてください。さらにベースと密着するよう平滑に施工ください。
- やむを得ずげた基礎となる場合は、アイソレータの下を基礎で受けられる形状としてください。（右図参照）
- 基礎据付面に凹凸がある場合や、傾斜が付いている場合モルタルにて補修するか、防振台ベースとの間にライナー等を挿入し補正してください。
- ベース内に水が溜まらないよう排水溝を設けてください。
- 納入仕様書にて基礎ボルトの位置、並びに基礎面からの立ち上がり寸法を確認のうえ、基礎ボルトを埋め込んでください。



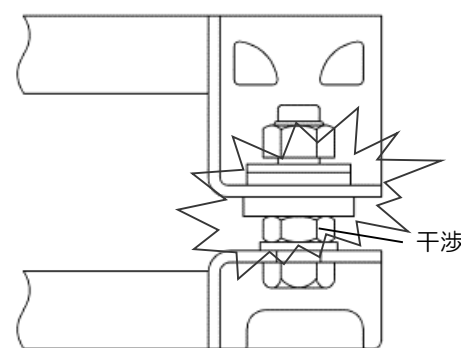
防振台及び機器の据付

- 機器及び防振台の据付け方向を確認（冷媒配管側に注意）したうえで防振台を基礎上に設置して、防振台ベースを基礎ボルトで仮止めしてください。
- このとき基礎及び防振台の水平をご確認ください。基礎面に凹凸がある場合や水平でない場合は、モルタルで補修するかライナーにて補正してください。（上記参照）
- 基礎ボルトにて防振台ベースを強固に固定してください。基礎ボルトの突き出し量が大きいと、機器取付ボルトが挿入しにくくなる場合があります。ご配慮願います。詳細は仕様書をご確認ください。
- 配管側に注意しつつ機器を静かに搭載してください。最後に付属の機器取付けボルトにて搭載機器をしっかり固定してください。



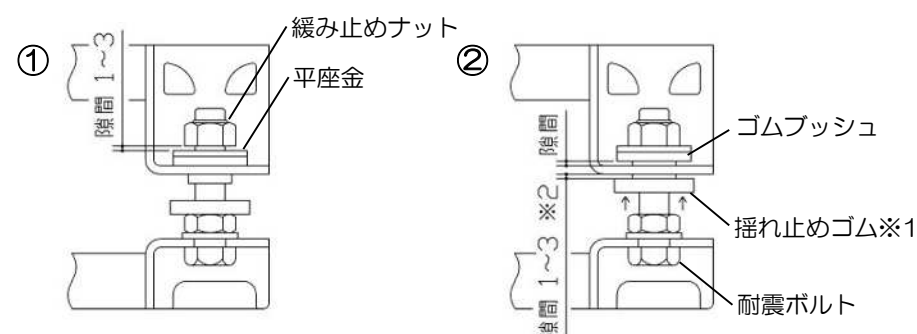
耐震ブラケットと揺れ止めゴムが干渉している場合は調整が必要になります。

- ① 緩み止めナットを十分に緩めて機器及び架台の水平を確認してください。
- ② 傾いている場合は架台をジャッキアップし、架台が低くなっていた側にアイソレータを移動させて水平となるように調整してください。
(ばねケース上を手で掴み下へ押し下げ、ケース本体を多少傾けながら移動させると、比較的楽に作業が行えます。)



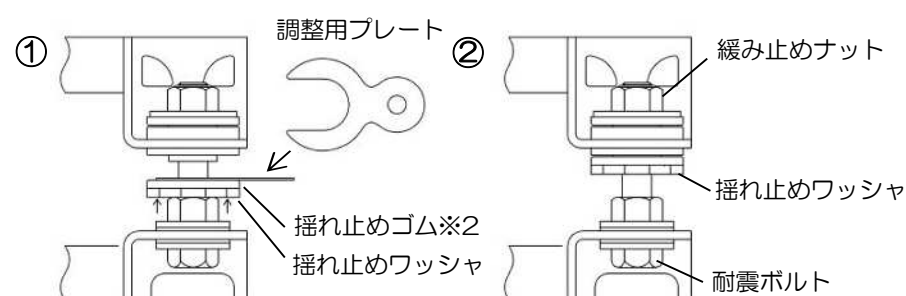
<BMシリーズの場合>

- ① 緩み止めナットと平座金との隙間を1~3mmに調整してください。
- ② 最後に揺れ止めゴム※1を平座金と緩み止めナットが軽く当たるまで上げてください。この際に右図のように隙間※2があることを確認してください。
(揺れ止めゴムは形状が異なる場合があります)



<HBMシリーズの場合>

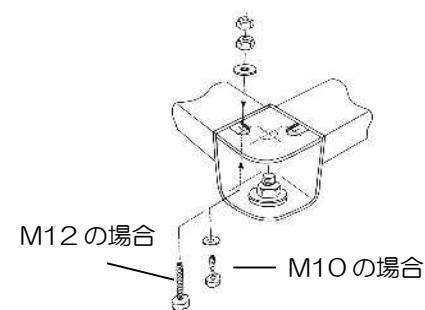
- ① 揺れ止めゴム※2の上に付属の調整用プレートを載せて、揺れ止めワッシャを廻して、調整用プレートが耐震ブラケットと揺れ止めゴムの間に、軽く挟み込まれるまで上げてください。
- ② 揺れ止めワッシャを手又は工具で保持して緩み止めナットを工具で締めこみ、最後に調整用プレートを抜き取ります。



コーナブラケットへ機器を固定する際の注意事項

右図のように、コーナブラケットのU字切欠き穴を使用して機器ベースを固定する場合は、ボルトサイズの違いにより防振台側のボルト付属品組み合わせが違いますので注意下さい。

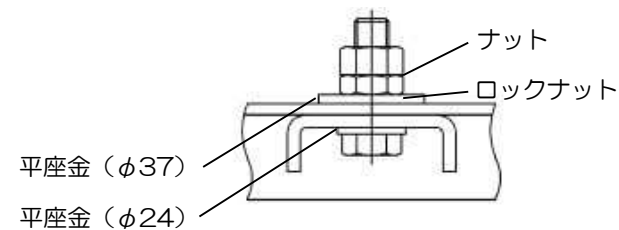
- M10の場合：六角ボルトに平座金(Φ21)を組込み下から挿入する。
M12の場合：六角ボルトのみをブラケット下から挿入する。



GBM用ブラケットへ機器を固定する際の注意事項

右図のように、GBM用ブラケットへ機器ベースを固定する場合は、付属品の組み合わせが違いますので注意下さい。

- 六角ボルトに平座金(φ24)を組込み下から挿入する。



配管との接続時注意事項

- 配管の接続・固定は、防振台の揺れによる変位を十分に吸収することが出来る工法にて施工ください。
詳しくは機器の施工要領書を参照してください。
- 配管等の重量は防振台設計に含まれておりません。
防振台に無理な力が加わらないよう十分にサポートしてください。
- 溶接作業を行う場合は、火花が当たらないよう十分に対策してから作業してください。

ご注意

- ※ 廃棄する場合は本体ゴム部：産業廃棄物、その他：リサイクル鉄材又はリサイクル樹脂材としてください。
- ※ 作業時の安全確保には十分な配慮をお願い致します。
- ※ 予告無く本体の構造等を一部変更することがあります。